

精神文化保全対策の検討（案）

～ 第3回検討会 精神文化保全対策の考え方（基本方針）より抜粋 ～

● 基本理念

1. アイヌの人々の文化享有権を尊重することをふまえて、文化的伝統と慣習をもとにした精神文化について、アイヌの人々の想いを大切に、次世代への継承に努める。
2. アイヌの文化・環境・社会的な背景を考慮し、アイヌの人々の参加を含め、保全対策のプロセスを重視する。
3. 儀礼行為に関し、文化的プライバシーを尊重する。
4. アイヌ以外の人々の理解を深めることにも留意する。

● 基本方針

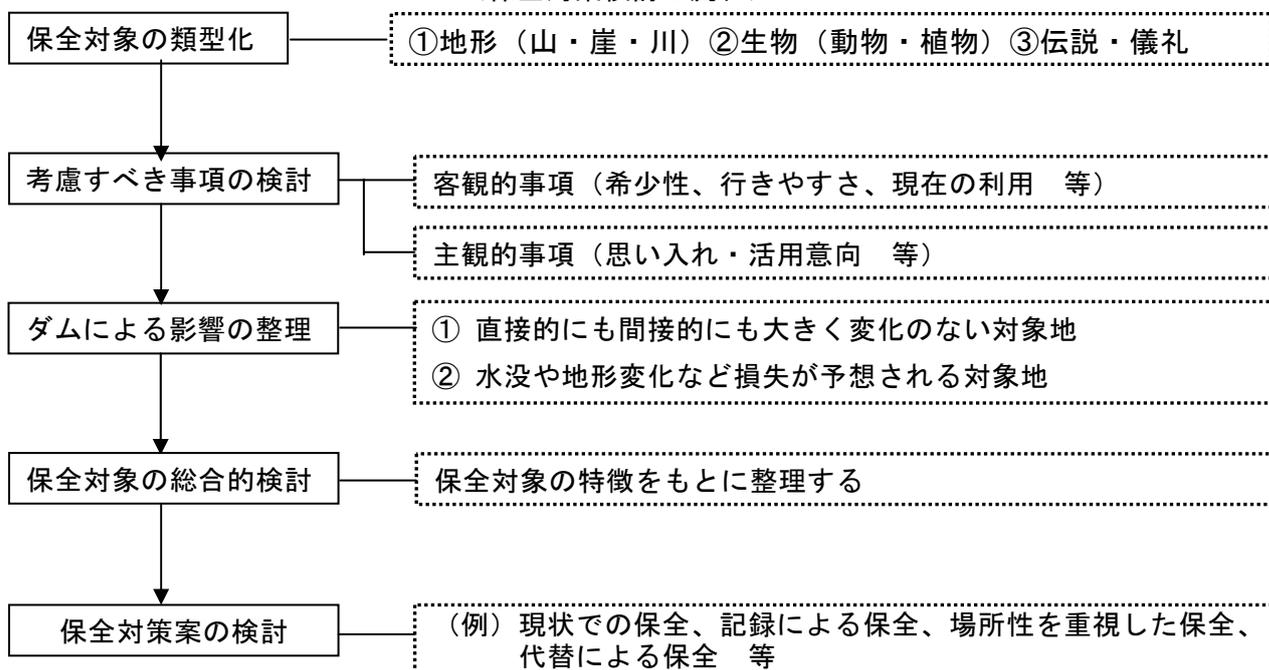
1. 精神文化に係る保全対象については、総括報告書による
2. 保全対象について、文化的価値等の考慮すべき事項を検討する。
3. 保全対象について、ダム事業の影響を把握する。
4. ダム事業の影響と文化的価値等をふまえ、保全対策を総合的に検討する。
5. 有形・無形にかかわらず、多様な保全対策の手法を考える。

● 保全対策検討の手法

1. 総括報告書をもとに、精神文化に係る保全対象を抽出し、類型化する。
2. 保全対象について、客観的価値（希少性、行きやすさ、現在の利用等）や主観的価値（思い入れ、活用意向等）等の考慮すべき事項について個別に検討を行う。
3. 流域図に精神文化に係る対象地を図示し、影響区分を整理する。
 - ① 直接的にも間接的にも大きく変化のない対象地
 - ② 水没や地形変化など損失が予想される対象地
4. 上記2. 3. をふまえ、それぞれの保全対象について保全対策の総合的な検討を行う。
5. 多様な保全対策の中から、具体的な方策について絞り込みを行う。

(例) 現状での保全、記録による保全、場所性を重視した保全、代替による保全 等

<保全対策検討の流れ>



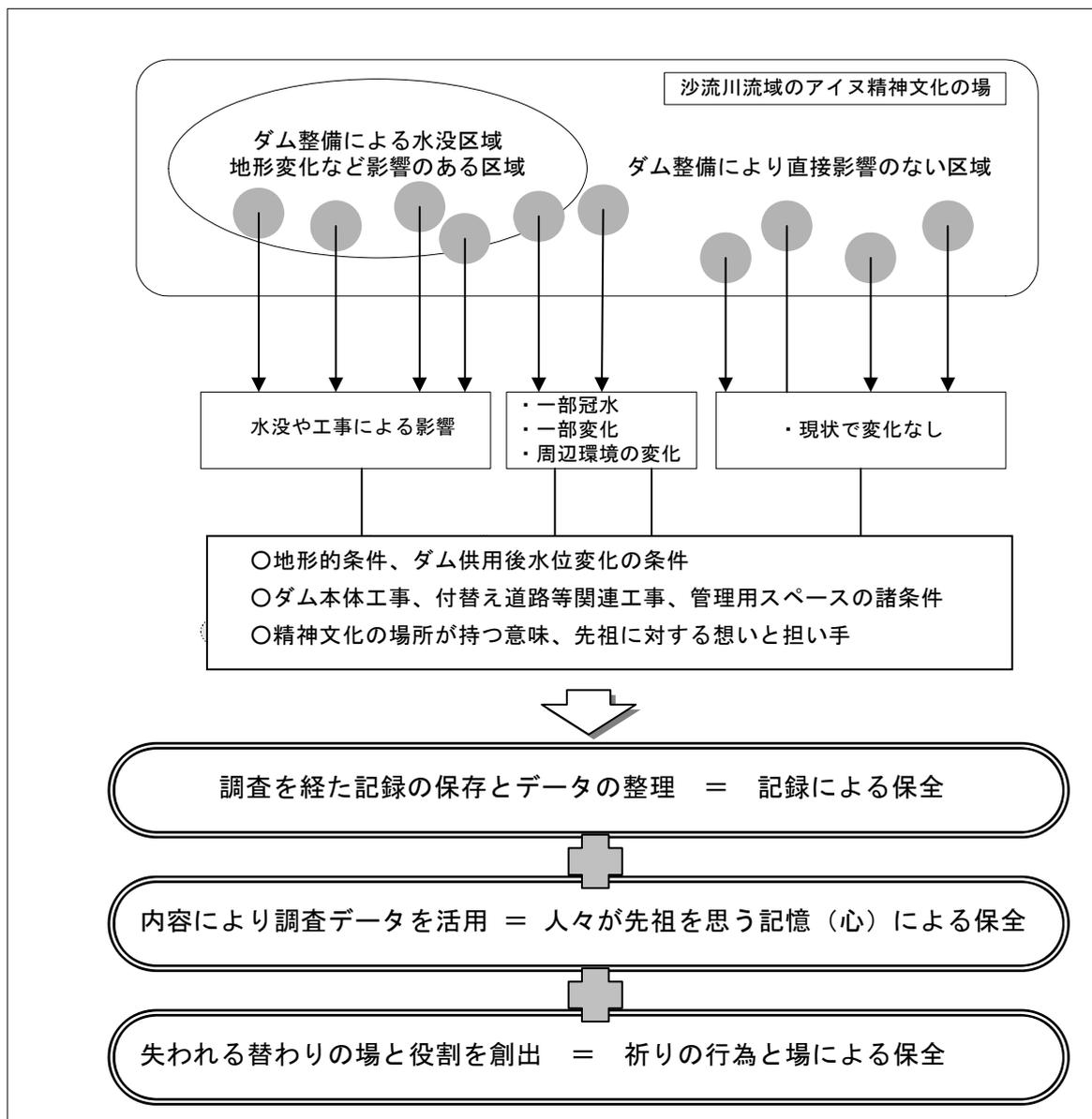
<精神文化保全対象に関する保全対策検討作業の流れ>

平成 17 年度総括報告書から保全対象の抽出（平取町域）

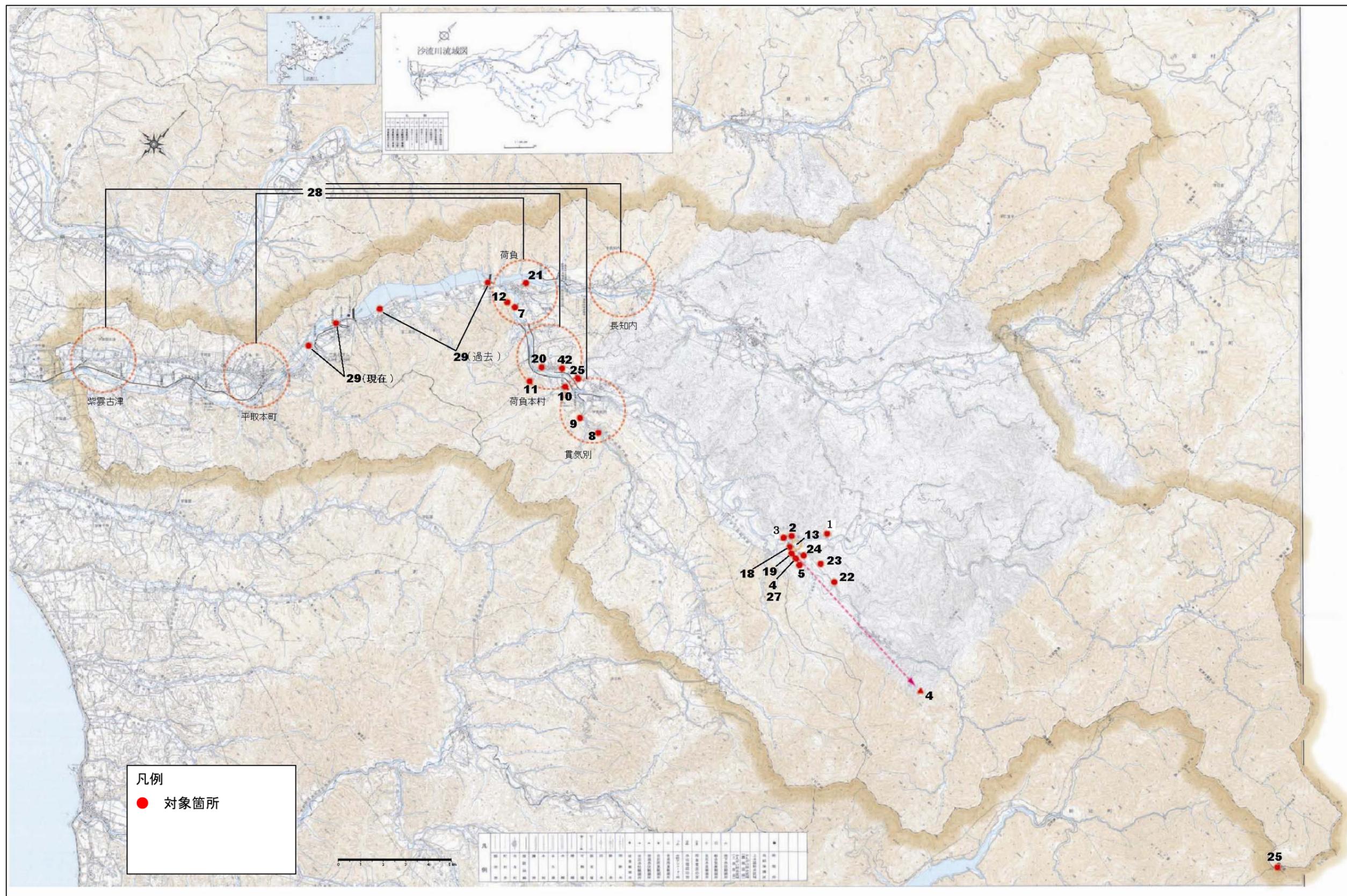
保全対象の類型化：①地形（山・崖・川）②伝説・儀礼③生物（動物・植物）

客観的事項及び主観的事項から見た保全対象の確認、傾向の把握

ダム建設による影響について保全対象毎の予測と整理



平取町域における精神文化保全対象に関する位置図



■平取町域における精神文化に関する保全対象項目一覧

No.	保全対象区分					精神文化に 関して特定 の場所に対 するダム建 設の影響が 認められる
	区分	分類	保全対象	詳細な場所	利用内容	
1	地形	山	荷負本村のチノミシリ	額平川と宿主別川の合流点付近の少し上流 「詳細～総括報告書P216 ウ」	長知内の男性の祖父はこの山に向かってカムイノミ（神への祈り）をしていました。この男性によると荷負本村の人たちは山に来てカムイノミするのはみたことがないそうです。	○
2	地形	山	チノミシリ	額平川と宿主別川の合流点付近 「詳細～総括報告書P216 イ」	荷負本村に住む男性の家系や、荷負本村の人達のチノミシリ（我ら祭る所）	○
	地形	崖・山	クエラン姫神（ハセオカミ）	エチネケ峰は宿主別川河口の崖ではないかと考えられるが、場所の特定はできていない 「詳細～総括報告書P204」 上部が欠けている様子の山「H18調査班調査」	Eチンケ峰にいるホロリの2神のうちの1人	
	地形	崖・山	荷負の男性のハセオカミ	エチネケ峰は宿主別川河口の崖ではないかと考えられるが、場所の特定はできていない 「詳細～総括報告書P216 エ」 上部が欠けている様子の山「H18調査班調査」	カムイノミ（神への祈り）をしていた	
3	地形	崖	チノミシリ	宿主別と額平川の合流点のやや下流の崖 「詳細～総括報告書P215 ア」	荷負のシケレベコタンの地域の方が一番大事にしている神への祈りの場	○
	地形	崖・山	崖の神様（ハセオカミ）	額平・宿主別川合流よりやや下流の崖・山 「詳細～総括報告書P203」	「スクシュベツブトウ イタカナツカ クランケマツカムイカケマツ」（宿主別の、新冠川との出会い、といってもそこである崖の神様） 女神が降りる（ある家系）	
4	地形	山	チノミシリ	宿主別で荷負本村で馬の番兵をしていた人が、馬の番兵小屋から西に向かって見える山（貫気別山の手前の山）「詳細～総括報告書P217 カ」	カムイノミ（神への祈り）をしていた	○
	伝説・儀礼	儀礼	チノミシリにカムイノミしていた場所	宿主別で荷負本村で馬の番兵をしていた人が、馬の番兵小屋から西に向かって見える山（貫気別山の手前の山）に向かってカムイノミをしていた場所「詳細～総括報告書P217 カ」道路を挟み向かい側でもカムイノミをしていた可能性がある	カムイノミ（神への祈り）をしていた	
	伝説・儀礼	儀礼	チャラバ（チャラバ・チャラバ）が行われた場所（先祖を偲ぶ場）	荷負や平取ダム水没予定地内宿主別橋付近で行われていた。例）宿主別の橋の袂、道路から右側からチャラバが行われていた場所「詳細～総括報告書P223 イ」	チャラバ（神の国へ供物などを送るためにちらす）	
5	地形	岩	ピラホラク	宿主別橋より上流の川向の少し崩れた山のような岩（※その後の調査により、場所が異なることが判明） 「詳細～P207エ）・P217オ）・P230」	荷負本村に住む女性の祖父が、漁獲をする時にカウ（魚を捕る梁）に魚がたくさんはいるようにノミ（祈る）していた。	—
6	地形	崖山	コタンエブンキナ（村を守る祈り） 「カムイノミをした場所」	貫気別から芽生に行く方の川向の崖山「詳細～総括報告書P226 キ」	コソアノシネ（村を守る祈り）をしていた所へ行って年1～2回カミイミをしていた	×
7	地形	崖	オチルシ（祈りの対象）	額平川川口から少し上流の左岸の崖 「詳細～総括報告書 P218 ア」	あらゆるカムイ（神）が降りてくるころなので、あまりにも良すぎでかえって悪い場所として捉えられている。	×
8	地形	崖	チノミシリ（ハシケチカピラ）	セタナイ川の上流にある崖。陸地測量部29年の地形図にはハシケチカピラと記されている「詳細～総括報告書P218 ウ」	貫気別の人達（チナイ地区の人達）がカミイミするチノミシリ	×
9	地形	崖	エサンピラ（祈りの対象）	貫気別川川口付近の岩が突き出たようになっている崖 「詳細～総括報告書P218 イ」	エサンピラには貫気別コタンの人達のイノウチバ（祭場）があった	×
10	地形	山	チャシコツ（カムイノミ）	陸地測量部明治29年の地形図にはチヤシコツと記され、現在はチヤシコツと呼ばれている「詳細～総括報告書P225 エ」	荷負本村の人達や貫気別の7班の人達は、荷負のチャシコツ（小高い山になった所）に向かってカムイノミをしていた	×
11	伝説・儀礼	儀礼	ウンチャシ	陸地測量部明治29年の地形図にはウチヤシと記され、現在はウチヤシと呼ばれている「詳細～総括報告書P225 ウ」	荷負本村の男性は日照りの時、荷負本村から見える山の上で雨乞いの為に火を炊いてカムイノミしていた。荷負本村の女性はこの山をボンピラケシと読んでいます。	×
	地形	崖	ムイノカ（箕の形）	沙流川と額平川の合流点から少し逆のぼると左岸（荷負対岸）にあるムイ（箕）の形をした崖 「詳細～総括報告書P226 カ）・P231（ノカ・ピラ）」	シラベコツ・ホロリカコツ・ホロリカコツの人達はムイ（箕）に向かってシラベコツ（踊り）をしたり、雨乞いのカミイミ（神への祈り）をしていた	
12	地形	山	荷負富士	荷負富士「詳細～総括報告書P224 イ」	ベナコリの人達のカムイノミの対象	×
13	地形	川	ペテウコピ（祈りの対象）	額平川・宿主別川合流地点「詳細～総括報告書P247 2）・P442」	川と川がぶつかる場所はお祈りをする対象だということがあった	○
14	地形	川	チューラッペマツカムイカケマツ	「詳細～総括報告書P245 第1項」	流れを司る神の淑女	—

No.	保全対象区分					精神文化に関して特定の場所に対するダム建設の影響が認められる
	区分	分類	保全対象	詳細な場所	利用内容	
15	地形	川	チワシコロカムイ	川の波の荒い所「詳細～総括報告書P246 第2項1)」		—
16	地形	川	ハツタラコロカムイ	崖下の渦巻き・泡になっている所「詳細～総括報告書P246 第2項1)」		—
17	地形	森	イウオロコロカムイ	森林「詳細～総括報告書P210」	獵場を司る神	×
18	伝説・儀礼	儀礼	マタギの人たちが漁に出かける前カムイノミしていた場所	額平川と宿主別川のぶつかっている二股（合流点）の少し高い場所「H18調査班調査」	合流点の少し高い場所に三角小屋があり、マタギの人たちが5・6人集まって獵へ出掛けるまえにイノウチバでカムイノミをした場所	○
19	伝説・儀礼	水	カムイワッカ	宿主別橋の手前右側湧き水「詳細～総括報告書P221 2)ア)」	カムイノミ・飲み水	○
20	伝説・儀礼	水	カムイワッカ	荷負本村のボンナイと呼ばれる湧き水「詳細～総括報告書P221 2)イ)」	お正月の12時を過ぎると水を汲みに行き神棚に供えていた	×
21	伝説・儀礼	水	スマルイコツ	荷負の斎場上がる途中にある湧き水「詳細～総括報告書P246 イ)」	飲み水	×
22	伝説・儀礼	儀礼	イヨマンテが行われた場所	スズラン群生地付近「詳細～総括報告書P194 4)21行目～27行」	荷負本村の男性のマタギ小屋があり、イヨマンテが行われたと思われる場所。	○
23	伝説・儀礼	儀礼	ヌサにカムイノミしていた場所	スズラン群生地付近「詳細～総括報告書P194 4)8行目～20行」	荷負本村の男性の番小屋やヌサがありカムイノミを行っていた場所。また1937年、38年にイヨマンテ（クマ送り）をした場所。	×
24	伝説・儀礼	儀礼	ヌサ	荷負本村の男性はずらん群生地上がるカーブの牧草畑の左側に住んでいた家があり家の外にはヌサがありヌサに向かってカムイノミをしていた「詳細～総括報告書P224 ア)」	祭壇で神への祈りをする場所	○
25	伝説・儀礼	伝説	キタルシナイ（伝説）	山中で数日迷うと、この沢に出てくると伝えられている「詳細～総括報告書P231」		—
26	伝説・儀礼	伝説	ボロシリ	額平川の源流であり日本百名山の1つ（幌尻岳）「詳細～総括報告書P221 イ）・P229 ア)」	ホロシリ（大きい・山）が語源。神様がいて山として崇拝され、神々がおいて遊ぶ所と信じられ、ここを訪れるものは、再び人界に帰ることができないと伝承が残されている山	×
27	伝説・儀礼	儀礼	チャラバ（チャルバ・チャルバ）が行われた場所（先祖を偲ぶ場）	荷負や平取ダム水没予定地内宿主別橋付近で行われていた。	チャラバ（神の国へ供物などを送るためにちらす）	—
28	伝説・儀礼	儀礼	シンヌラツバ	額平川流域各地・沙流川流域で行われていた「詳細～総括報告書P223 ア)」	先祖供養が行われた場所	×
29	伝説・儀礼	儀礼	チフサンケ	「詳細～総括報告書P445 イ)」	春から秋に行われる進水式。新しく造った舟に新しい命を与える入魂の儀式	×
30	生物	動物	キムンカムイ（ヒグマ）（ハ'セツガミ）	総括報告書 第5章 地図5-2-1-① 聞き取りからのキムンカムイ情報1 図5-2-1-⑤ 聞き取りからのキムンカムイの情報2を参照	先祖がトバットウミ（夜盗・夜討ち）にあった時、キムンカムイの足跡に導かれて仇を討つことが出来たためとされる。「詳細～総括報告書P203」	×
31	生物	動物	シチカフ（クマタカ）	平取ダム環境調査では平取ダム堤体建設予定地付近（湛水域外）でクマタカの営巣地が確認「詳細～総括報告書P293 イ)」	シケレベのある家系では人を襲ったくまをシチカフ（クマカ）が倒したので、以来イノウ（木で削った御幣のような物）と神酒を捧げてノミ（祈り）するようになった。「詳細～総括報告書P203」	×
32	生物	動物	エゾシカ（ユク）	平取ダム水没予定地内・周辺及び沙流川流域で確認「詳細～P総括報告書297」	ウを獲った時には火の神様に報告をして供える程度はしていた	×
33	生物	動物	キタキツネ（チロンヌフ）	平取ダム水没予定地内・周辺、桂峠、二風谷湖対岸および二風谷ダム管理橋の下流で確認「詳細～総括報告書P298」	アイヌの人達はキツネを飼うこともあり、キツネ送りをして神の国へかえしていた。1912（大正元）年に、ヌキベツコタンでキツネ送りがあった	×
34	生物	動物	シマフクロウ（コタンコロカムイ）	地図5-2-1-⑤ 聞き取りからのシマフクロウ・ふくろうの地図	村を司る神	×
35	生物	動物	クンネロンヌフ（ハ'セツガミ）	賀張の上流にある厚賀の山の東側に降臨したと言われる黒いキツネの女神「詳細～総括報告書P204」	黒キツネの神	×

No.	保全対象区分					精神文化に関して特定の場所に対するダム建設の影響が認められる
	区分	分類	保全対象	詳細な場所	利用内容	
36	生物	動物	シノタイエトコの山 (ハセツカミ)	シノタイエトコの山に棲む黒キツネの神「詳細～総括報告書P204」		×
37	生物	動物	白いキツネ	アベツ沢入り口の峰に住む白いキツネ「詳細～総括報告書P204」	神として祀られる	×
38	生物	動物	その他のカムイ(神)・カムイノミ(神への祈り)・おまじない等)	「詳細～総括報告書P212 12)」	チロヌ(キツネ)・モウ(エゾタヌキ)・イホ(エゾウサギ)・ホヌ(テウ)・キヌカハム(ハビ)・カリエア(ニホンイヌ)に対してノミ(祈り)されていた。またシハ(シロガケ)・ヌム(シヤモ)漁や山菜採り、病気の前後に、厄除け、使わなくなったものの処分の場面で行われていた。	—
39	生物	動物	チビヤクカムイ(しぎ神)	「詳細～総括報告書P212 サ)・P297」	*耳を治してくださる神とされ、荷負本村の女性が語ったカムイユカラにでてるチビヤクはオオジシギであると訳されている。調査室による調査では平取ダム水没予定地内および周辺では確認されていない。	—
40	生物	動物	モクスガニ(アミタンネ)	「詳細～総括報告書P211 ク)・P245」	位の高い水の神にお願いのお祈りをする場合には、アミタンネ(モクスガニ)の神を仲介にして伝えていた	—
41	生物	動物	カハシロヌ(雪のように白いキツネ)	「詳細～総括報告書P211・P298」	滅多に目にしたり、手にすることはできないため縁起の良いものと信じられている。関連する動物としてキタキツネの他、キタイズナ、ニホンイイズナ、エゾオコジヨとした内、ニホンイイズナが確認されている。	×
42	生物	植物	エンジュの木(祈りの対象)	荷負本村の神社、エンジュの木「詳細～総括報告書P211 カ)」	シンヌラツパ(先祖供養)	×
43	生物	植物	スルクトノマツ	「詳細～総括報告書P210 オ)」	トリカブト姫(トリカブト)。トリカブトの根にある毒を小指の先ほどの谷尻にほんの少しつけるだけでどんな大クマも一矢で倒せたため	—
44	生物	植物	シケレペニ(キハダの木)	「詳細～総括報告書P268」	神に頼み事をする時にイナウにする木で一番上にあるのがシケレペニといわれる	—

注：詳細な場所の記載について

○「総括報告書」→「アイヌ文化環境保全対策調査 総括報告書」に掲載

○No.18の「H19年3月 調査班報告2007年3月」→「アイヌ文化環境保全対策事業2007 調査班報告」に掲載

■平取ダム建設により直接あるいは一定の影響を受ける精神文化の保全対象について

No.	保全対象区分					現状	現状写真	カムイノミをしていた場 と祈りの方向	ダム建設により 受ける影響
	区分	分類	保全対象	詳細な場所	利用内容、主たる特徴				
1	地形	山	荷負本村のチノミシリ	平取町字芽生 額平川と宿主別川の合流 点付近の少し上流	長知内の男性の祖父はこの山に向かってカムイノミ（神への祈り）をしていました。この男性によると荷負本村の人たちは山に来てカムイノミするのは見たことがないそうです	額平川と宿主別川の合流点より額平川上流に位置し、周囲の山並みから突出した山塊であり町営牧場から北側の景観ではランドマークとなっている		・通りすがりに礼拝していたと言われるが、どこからしていたかは明らかでない ・荷負本村の人たちは家の中の炉端でカムイノミをしていたとされる	チノミシリの山裾が水没するが、全体的な山の形は維持され、遠くからの景観や地域の目印となる象徴性（ランドマーク性）は保持される
	地形	山	チノミシリ	額平川と宿主別川の合流点付近「詳細～総括報告書P216 イ）」	荷負本村に住む男性の家系や、荷負本村の人達のチノミシリ（我ら祭る所）	額平川と宿主別川の合流点近くに位置し、連続的に見られる周辺の山並みからやや突出している。		額平川と宿主別川の合流点でカムイノミを行う	チノミシリの山裾が水没するが、全体的な山の形は維持され、遠くからの景観や地域の目印となる象徴性（ランドマーク性）は保持される
	地形	崖・山	クエラン姫神（ハセオンカミ）	エチネンケ峰は宿主別川河口の崖ではないかと考えられるが、場所の特定はできていない「詳細～総括報告書P204」上部が欠けている様子「H18調査班調査」	エチネンケ峰にいるホロシの2神のうちの1人				
地形	崖・山	荷負の男性のハセオンカミ	同上	カムイノミ（神への祈り）をしていた					
3	地形	崖	チノミシリ	宿主別と額平川の合流点のやや下流の崖 「詳細～総括報告書P215 7）」	荷負のシケレペコタンの地域の方が一番大事にしている神への祈りの場	宿主別川と額平川の合流点よりやや下流の山で、正面の段丘部からは樹木に隠れてやや見づらい状況になっている		チノミシリに向かって、どこからカムイノミをしていたか明らかになっていない	チノミシリの山の一部は影響を受けるが、全体的な山の形は維持される
	地形	崖・山	ハセオンカミ	額平・宿主別川合流よりやや下流の崖・山 「詳細～総括報告書P203」	「スクシュペツプトウイタカナッカ クランケマツ カムイカッケマツ」（宿主別の、新冠川との出会い、といってもそこである崖の神様）女神が降りる（シケレペのある家系）				

No.	保全対象区分					現状	現状写真	カムイノミをしていた場 と祈りの方向	ダム建設により 受ける影響
	区分	分類	保全対象	詳細な場所	利用内容、主たる特徴				
4	地形	山	チノミシリ	宿主別で荷負本村で馬の番兵をしていた人が、馬の番兵小屋から西に向かって見える山（貫気別山の手前の山）「詳細～総括報告書P217	カムイノミ（神への祈り）をしていた。また先祖を偲ぶ場としてチャルパも行われていた	建物は残っておらず疎林状態。スズラン保全地区に向かって300m進んだ場所からチノミシリを行っていた		<ul style="list-style-type: none"> ・番兵小屋の近くのヌサでカムイノミを行い、貫気別山の手前の山に向かって祈っていたとされている ・番兵小屋から宿主別橋の近くの場所で、神の国に供え物を送るチャルパが行われ、現在も続けられている 	カムイノミの対象となるチノミシリは影響を受けて祈っていたとされているが、カムイノミをしていた場所は水没することになり、近くに付替道道の橋梁の橋脚が配置される
	伝説・儀礼	儀礼	「チノミシリにカムイノミしていた場所」チャルパも行われていた						
	伝説・儀礼	儀礼	チャラパ（チャルパ・チャルパ）が行われた場所（先祖を偲ぶ場）	荷負や平取ダム水没予定地内宿主別橋付近で行われていた。例1：宿主別の橋の袂、道路から右側からチャラパが行われていた場所「詳細～総括報告書P223 イ）」	チャラパ（神の国へ供物などを送るためにちらす）	周囲は草地となり、コナラやヤナギ類の林となっている。小屋のあった場所にはスモモが2本ある			
11	地形	川	ペテウコピ（祈りの対象）	額平川・宿主別川合流地点「詳細～総括報告書P247 2）・P442」	川と川がぶつかる場所はお祈りをする対象だということがあった	川の流れ、合流地点は幅の広い川原を動き、毎年変化している。2003年の台風により一時、河畔林はほとんどなくなっていたが、近年ヤナギ類が繁茂しはじめている		川の合流点そのものが祈りの対象とされている	川の合流地点は水没する
18	伝説・儀礼	儀礼	マタギの人たちが漁に出かける前カムイノミしていた場所	額平川と宿主別川のぶつかっている二股（合流点）の少し高い場所「H18年調査班調査」	合流点の少し高い場所に三角小屋があり、マタギの人たちが5・6人集まって獵へ出掛けるまえにイナウチパでカムイノミをした場所	三角小屋があった高台は、現在は川より3mぐらい高くなっている。三角小屋があった場所は、湛水すると失われる。現在は3m～5mぐらいの高さのヤナギが生えている		三角小屋の建っていた場所の近くでイナウチパと呼ばれる祭壇のようなものにお祈りしていたとされている	制限水位付近に位置することから水没する期間と水没しない期間がみられる

No.	保全対象区分					現状	現状写真	カムイノミをしていた場 と祈りの方向	ダム建設により 受ける影響
	区分	分類	保全対象	詳細な場所	利用内容、主たる特徴				
19	伝説・ 儀礼	水	カムイワッカ	宿主別橋の手前右側湧き 水「詳細～総括報告書P 221 2)ア)」	カムイノミ・飲み水	宿主別橋の手前右側の斜 面から流れ出している湧 き水。以前より水量は少 なくなっており、林床植 生により視認しづらい状 況		湧水そのものが祈りの対 象ともなっている	常時満水位に近い水位に あることから水没する期 間と水没しない期間がみ られ、また付替道工事 により影響を受ける可 能性も考えられる
22	伝説・ 儀礼	儀礼	カムイノミ	平取町字芽生	荷負本村の男性のマタギ 小屋があり、カムイノ ミ、イヨマンテが行われ た可能性のある場所	現在は放牧地跡となっ ておりササ原、林地となっ ている		詳細は不明	付替町道工事が近くで行 われる可能性があること から、周辺環境が変わ ることが予想される
23	伝説・ 儀礼	儀礼	又サ（カムイノミが行わ れていた場所） またイヨマンテをした場 所。	平取町字芽生 スズラン群生地北側に番 小屋や又サがあった	又サに向かってカムイノ ミを行っていた場所。ま た1937年、38年にイヨマ ンテを行った場所	建物などは残っておら ず、地面は平坦に整備さ れており疎林となってい る		番兵小屋の近くの又サで カムイノミを行い、ポロ シリの方向に祈っていた とされている	特に影響はみられない

No.	保全対象区分					現状	現状写真	カムイノミをしていた場 と祈りの方向	ダム建設により 受ける影響
	区分	分類	保全対象	詳細な場所	利用内容、主たる特徴				
24	伝説・ 儀礼	儀礼	又サ(カムイノミを行っ ていた場所)	平取町字芽生 すずらん群生地にかかる カーブの牧草畑の左側に 住んでいた家があり家の 外には又サ。「詳細～総 括報告書P224 ア)」	又サ(祭壇)で神への祈 りをする場所。家の外に ポロシリの方に向かって 又サがあり、又サに向 かってカムイノミを行っ ていた	家があったとされる場所 は牧草地となっている。 近傍には枯れたコナラの 木が1本立っている		家が立っていた近くの又 サでカムイノミを行い、 ポロシリに向かって祈っ ていたとされている	家があったとされる箇所 はサーチャージ水位付近 に位置するところから、 計画規模の洪水があった 場合は水没する

■平取ダム建設予定地における精神文化保全対象の保全対策イメージ

